

女子美術大学大学院修士課程

平成26年度

インタラクティブ空間演習

講義：『言語論的転回について』

この演習は？

記号論を切り口としてアートを考察する演習

この演習は？

記号論を切り口としてアートを考察する演習

記号学 semiology は、言語を始めとして、
何らかの事象を別の事象で代替して表現する手段について研究する学問

記号とは？

- 記号 (sign)
 - 視覚や聴覚を伴うものによって、何らかの対象を示すもの
 - 視覚や聴覚 = 色・形・音・匂い など
 - 例： 信号、サイレン、言語 など

記号とは？

- 記号 (sign)
 - 視覚や聴覚を伴うものによって、何らかの対象を示すもの
 - 視覚や聴覚 = 色・形・音・匂い など
 - 例： 信号、サイレン、言語 など

【記号論の前提】

- 「記号」と、その「指示対象」自体 には
必然的なつながりはない
- ある「記号」は、他の「記号」との関係性によって意味をもつ

なぜ「記号論」か？

- あらたな「記号」は、あらたな「意味」を作る
- 記号（言語）が意味を作り、いずれ文化をつくる
- ここに「表現」の自由や意義がある。

なぜ「記号論」か？

この演習では、、

「表現行為」の根幹、

つまり、「記号」と「意味」の仕組みを、記号論を軸に、

人間社会のインタラクティブな営みから探ることで、

あらためて「アート」について考えてみたい。

記号とは？

【記号論の前提】

- 「記号」と、その「指示対象」自体 には
必然的なつながりはない
- ある「記号」は、他の「記号」との関係性によって意味をもつ

記号とは？

【記号論の前提】

- 「記号」と、その「指示対象」自体 には
必然的なつながりはない
- ある「記号」は、他の「記号」との関係性によって意味をもつ

前提の背景に

「言語論的転回」 Linguistic Turn (1960年代)

→ 20世紀最大の人文科学上の学術的発見

本日のメニュー

本日のメニュー

- 「転回」とは？
 - だれが「言語論的転回」させたのか？
 - それは何をもたらしたのか？
- ※ 輪読の担当範囲の確認

1.「転回」とは？

1. 「転回」とは？

- 日本語の「**転回**」 turn とは？
 1. ぐるりとまわすこと。回転。
 2. ぐるりと方向をかえること。方向が変わること。

→ ここでは **学術研究で、物の見方が「ぐるりと方向をかえる」こと**

→ **パラダイム・シフト paradigm shift と同義**

1. 「転回」とは？

- 「言語論的転回」とは 何が「転回」したか？

→ 「言語名称目録観」が「新たな見方」へ転回した。

「言語名称目録観」とは？

1. 言葉より先に、物事自体が存在する。
2. 人は その存在の一つ一つにラベルをはる
3. 物の名前がつけられる。
4. そして言葉というものが成立する。

1. 「転回」とは？

- 「転回」した結果、さらに、、、

世界の見方が「**実体論**」から「**関係論**」へ

物事はそれ独自で存在し、意味をもつ (実体論・実在論)



物事は他との関係性によって存在し、意味をもつ (関係論)

1. 「転回」とは？

- 「転回」した結果、さらに、、、

世界の見方が「**実体論**」から「**関係論**」へ

物事はそれ独自で存在し、意味をもつ (実体論・実在論)



物事は他との関係性によって存在し、意味をもつ (関係論)

「インタラクティブ」 Interactive

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

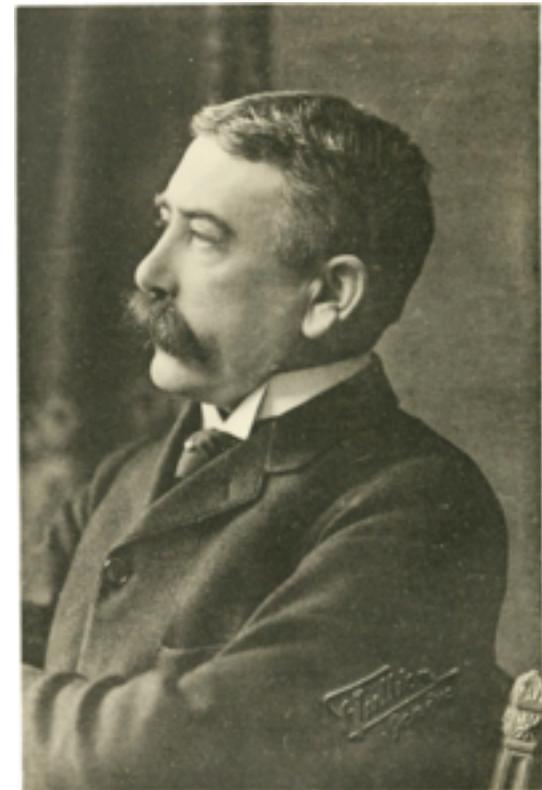
2. だれが「言語論的転回」させたのか？

フェルディナン・ド・ソシュール (1857 - 1913・スイス)

言語学者 ・ 「近代言語学の父」

- × 当時の主流の研究を批判 =
〈言語の成り立ちの歴史的研究〉
(× 言語の歴史的研究)
- 〈言葉の機能〉に着目する新たな研究を行う
(○ 歴史よりも現在の様子を研究 → 言語は変化するから)

学生達が編纂した『一般言語学講義』(1916)



画像: 土田知則ら『現代文学理論』20 より

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

フェルディナン・ド・ソシュール (1857 – 1913 ・ スイス)

1. 言語記号の構成要素 (シニフィアン – シニフィエ) の切り分け
2. 言語の「共時態」 - 「通時態」の切り分け
3. ラング (言語規則) - パロール (話し言葉) の切り分け

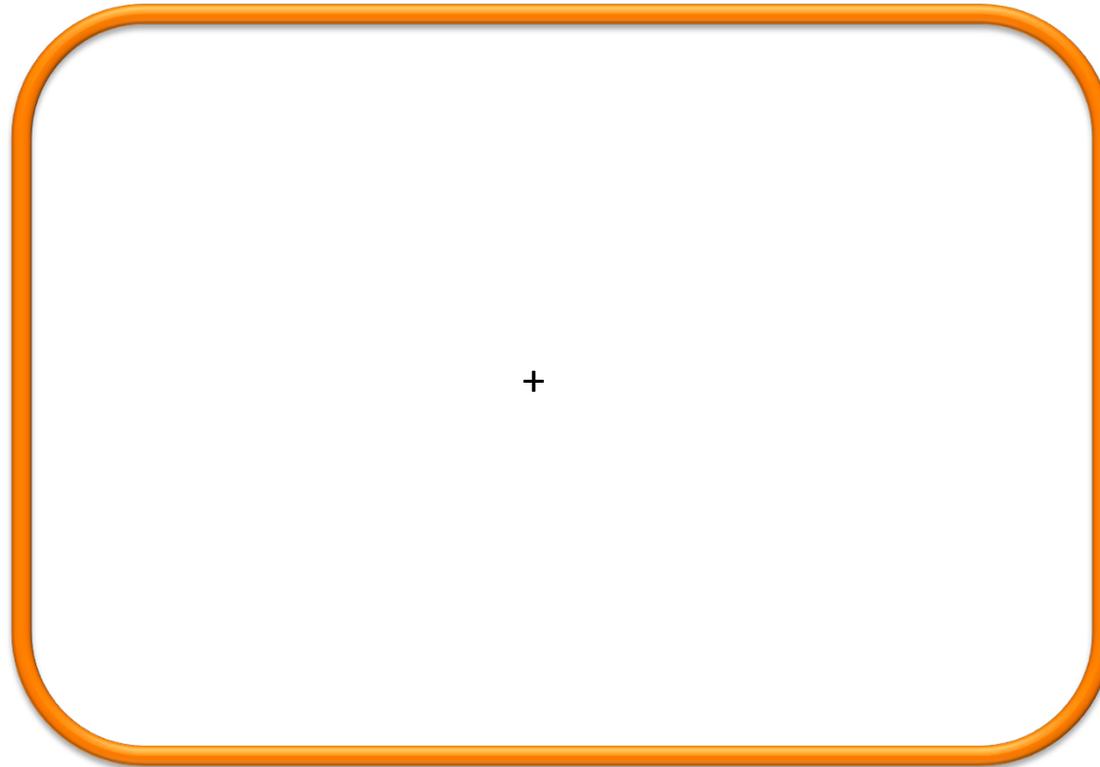
2. だれが「言語論的転回」させたのか？

フェルディナン・ド・ソシュール (1857 – 1913 ・ スイス)

1. 言語記号の構成要素 (シニフィアン – シニフィエ) の切り分け
2. 言語の「共時態」 - 「通時態」の切り分け
3. ラング (言語規則) - パロール (話し言葉) の切り分け

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) 話言葉の「犬」



2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) 話言葉の「犬」

- ・ シニフィアン = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) 話言葉の「犬」

・ **シニフィエ** = その言葉が意味する対象

ex.) 「犬」という対象、概念

+

・ **シニフィアン** = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) = シニフィエ (指示対象) + シニフィアン (音声像)

シーニュ (言語記号) 話言葉の「犬」

・ **シニフィエ** = その言葉が意味する対象

ex.) 「犬」という対象、概念

+

・ **シニフィアン** = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

犬

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「犬」

犬 (それ自体)

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

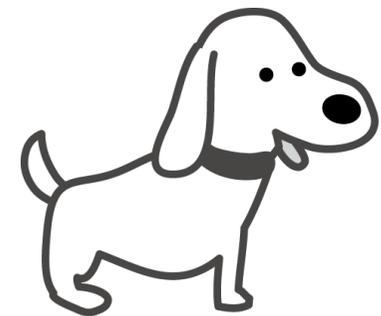
ex.) 「犬」という対象、概念

+

・ シニフィアン = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

犬



2. だれが「言語論的転回」させたのか？

はたして「犬それ自体」が最初に存在して、シーニュ「犬」ができたのか？

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「犬」

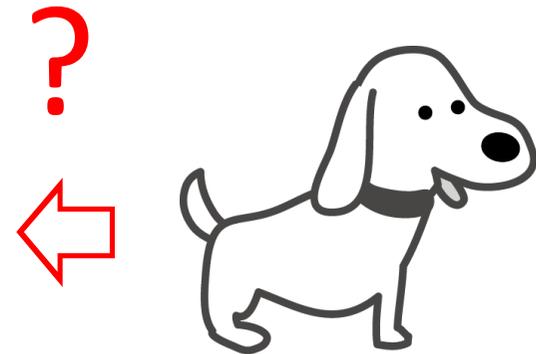
・ **シニフィエ** = その言葉が意味する対象

ex.) 「犬」という対象、概念

・ **シニフィアン** = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

「犬 それ自体」



言語名称目録観 OK ?

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

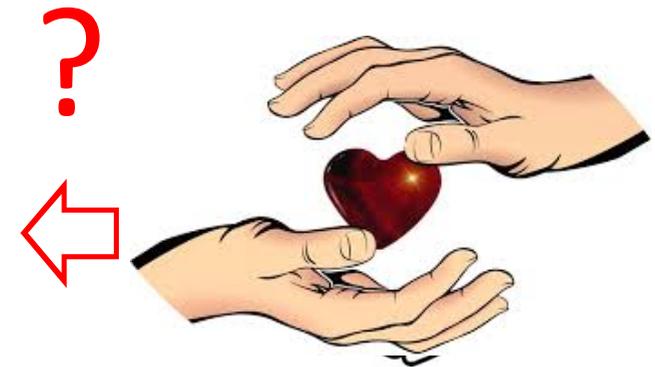
「貸しの行為それ自体」が最初に存在して、シーニュ「貸し」ができたのか？

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「貸し」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象
「貸し」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像
“ KASI ” という音

「貸しの行為それ自体」



言語名称目録観 OK？

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「貸し」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「貸し」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像

日本語 = “ KASI ”

ドイツ語 = “ MITTEN ”

フランス語 = “ RUWI ”

貸し



日本語 : 貸し

ドイツ語 : mieten

フランス語 : louer

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「借り」

・ **シニフィエ** = その言葉が意味する対象

ex.) 「借り」という対象、概念

・ **シニフィアン** = その言葉の音声像

日本語 = “ KARI ”

ドイツ語 = “ FA-MITTEN ”

フランス語 = “ RUWI ”

借り



日本語 : 貸し

ドイツ語 : vermieten

フランス語 : louer

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「貸し」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「貸し」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像

日本語 = “ KASI ”

ドイツ語 = “ MITTEN ”

フランス語 = “ RUWI ”

貸し



日本語 : 貸し

ドイツ語 : mieten

フランス語 : louer

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「借り」

・ **シニフィエ** = その言葉が意味する対象

ex.) 「借り」という対象、概念

・ **シニフィアン** = その言葉の音声像

日本語 = “ KARI ”

ドイツ語 = “ FA-MITTEN ”

フランス語 = “ RUWI ”

借り



日本語 : 借り

ドイツ語 : vermieten

フランス語 : louer

「もし語というものが、

あらかじめ与えられた概念を表出する役目を受け持ったものであるならば、

それらはいずれも意味上精密に対応するものを、言語ごとにもつはずである；

ところが**事実**はそうではない。

フランス語は『借りる』ことをも『貸す』ことをも無差別にlouer (une maison)という；

ドイツ語ならばmietenおよびvermietenと言い分けるところである；

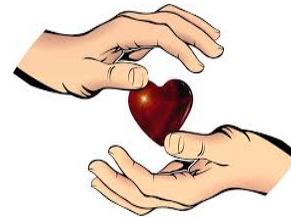
それゆえ**価値の精密な対応はない**」

F・D・ソシュール 『一般言語学講義』小林英夫訳、東京：岩波書店、1940年、163頁。



日本語 : 貸し
ドイツ語 : mieten

フランス語 : louer



日本語 : 借り
ドイツ語 : vermieten

フランス語 : louer

もしも、「貸し」や「借り」などの「行為それ自体」が、
たしかに、言葉に先立って存在するのであれば、

それらを、それぞれ、「違うもの」として示すために、「違うラベル」が付されるはずである。
しかし、国語によっては、同じであったりする（「貸し」-「借り」のフランス語のように）。

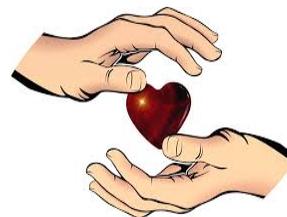
なので、「物事それ自体」が言葉に先行して存在しているとは言えなくなる。

= 「言語名称目録観」の否定



日本語 : 貸し
ドイツ語 : mieten

フランス語 : louer



日本語 : 借り
ドイツ語 : vermieten

フランス語 : louer

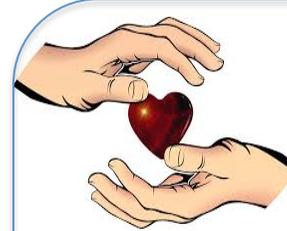
ここから言えることは、例えば、フランス人にとっては、「貸し」も「借り」が個別に存在しているのではなくて、両者は同じ行為に思えた、ということではないか。

「貸し」や「借り」の区別して、
それぞれを別個の存在を作りあげる要因とは、言語である。

フランス語 : louer



日本語 : 貸し
ドイツ語 : mieten



日本語 : 借り
ドイツ語 : vermieten

すでに切り取られ、確定した現実・概念 → 現実・概念を指し示す記号

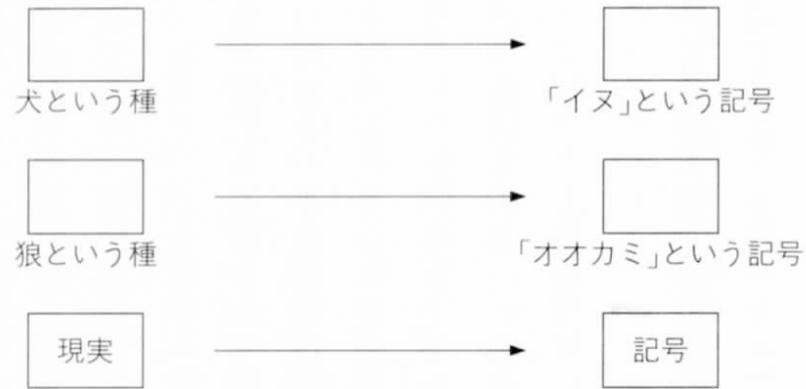


図2 言語名称目録観

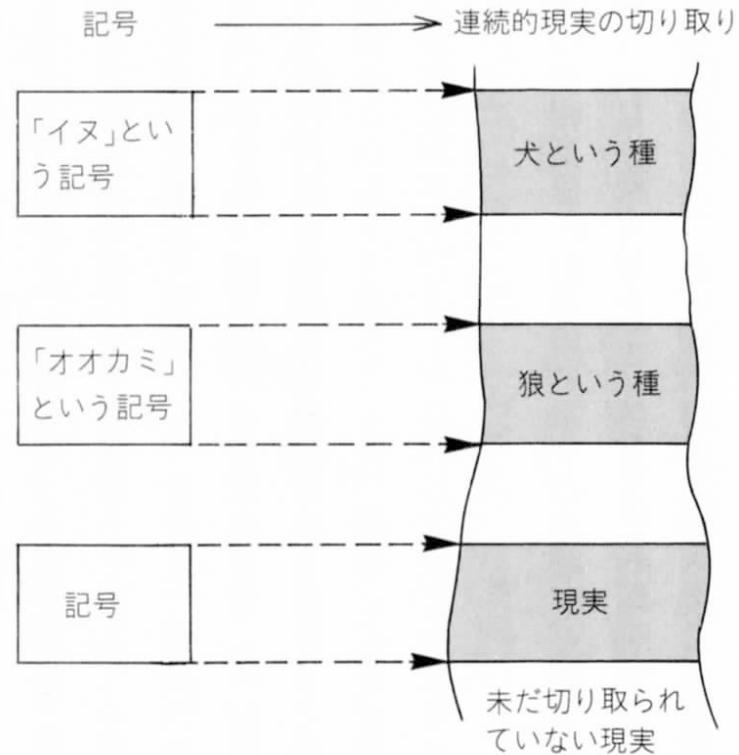


図3 ソシュールの考えた記号と世界

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

はたして「犬それ自体」が最初に存在して、シーニュ「山犬」ができたのか？

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「山犬」

「山犬 それ自体」

・ **シニフィエ** = その言葉が意味する対象

ex.) 「山犬」という対象、概念

・ **シニフィアン** = その言葉の音声像

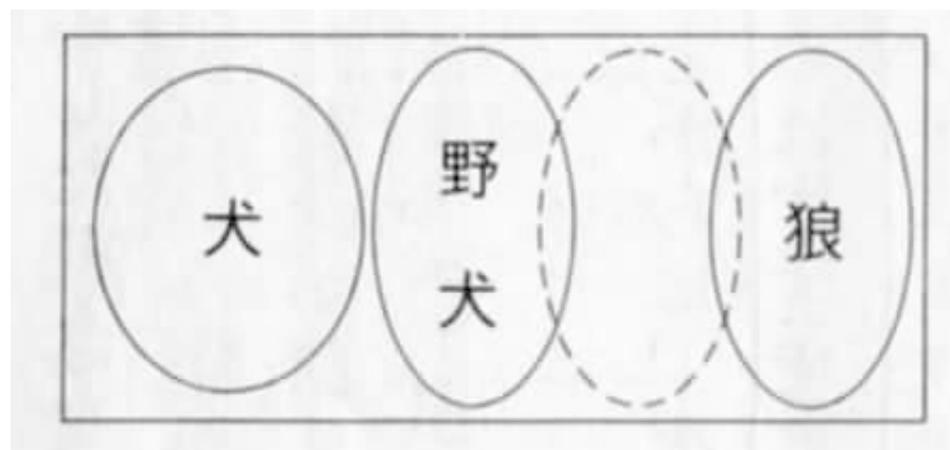
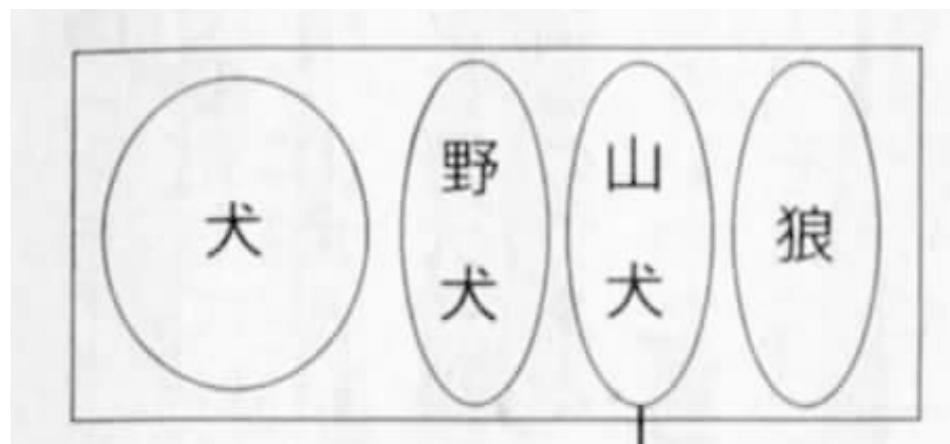
ex.) “Yama - inu” という音

?



言語名称目録観 OK?

言語の恣意性



2. だれが「言語論的転回」させたのか？

【重要】 下の結びつきに必然性はない = 「恣意的」な結びつき

しい【恣意】 気ままな心。 自分勝手な考え。

～ 広辞苑

→ 「恣意的な結びつき」= 「たまたま、偶然な、結びつき」

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

【重要】 下の結びつきに必然性はない = 「恣意的」な結びつき

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「犬」

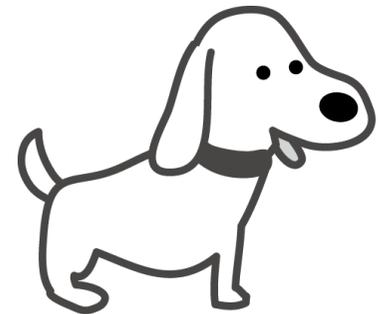
犬 (それ自体)

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「犬」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音



一方、「言葉それ自体」も単独で存在することはできない

犬

I N U

椅子

I S U

絹

K I N U

一方、「言葉それ自体」も単独で存在することはできない

犬

IN U

椅子

ISU

絹

KI NU

言葉「犬」の意味を決定づけるのは、

他の言葉とは違う「発音」による

= 言語は他の語との発音の違いによってその意味の区別をつけることができる。

= 関係性によって存在する。

何をもたらしたのか？

世界の見方が「実体論」から「関係論」へ

物事はそれ独自で存在し、意味をもつ (実体論・実在論)



物事は他との関係性によって存在し、意味をもつ (関係論)

「インタラクティブ」 Interactive

休講連絡

次週

4月30日 (水) 2限 休講

次回予定

5月7日 (水) 2限

発表担当：石井

第1章「ことば再発見」

pp.2.-13.